

## 案件概要書

2023年4月25日

### 1. 基本情報

- (1) 国名： フィリピン共和国（以下、「フィリピン」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名： レイテ島及びサマール島
- (3) 案件名： 第2 サンファニコ橋建設計画  
(2nd San Juanico Bridge Construction Project)

(4) 計画の要約：

本計画は、レイテ島とサマール島において両島間を結ぶ橋梁（第2 サンファニコ橋）及びそのアプローチ道路を建設することにより、増大する交通・物流需要への対応と両島間における交通・物流の寸断や制限による影響の最小化を図り、もって同地域の経済発展の促進に寄与することを目的とする。

### 2. 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

2023年2月に開催された日・フィリピン首脳会談では、岸田総理から、基本的価値を共有する戦略的パートナーであるフィリピンとの連携を重視すると述べた。また、第13回日・フィリピン経済協力インフラ合同委員会において、両国は、インフラ整備等の分野でも協力を推進していくことで一致している。我が国はこれまで、フィリピンのインフラ整備に大きく貢献してきており、現在も、マニラ首都圏やセブで当該分野案件を実施中である。また、技術協力と資金協力を組み合わせ、インフラ分野における維持管理能力の向上にも取り組んでおり、フィリピンの道路・橋梁分野における我が国による支援への期待は大きい。

我が国の対フィリピン国別開発協力方針（2018年4月改定）では、フィリピンの「持続的経済成長のための基盤の強化」に向けた支援を重点分野と位置付け、大首都圏及び地方都市を中心とした交通網ネットワークを始めとした質の高いインフラの整備を支援する方針を明記しており、本計画は同方針に合致している。また、更なる二国間関係の強化の観点からも重要であり外交的意義は大きい。

(2) 当該国における道路交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

フィリピンでは、地方都市間を結ぶ高規格道路網整備計画約1,400kmの実行が進められているものの、ビサヤ地方においては、地理的条件などの障害によって現時点で実施予定の事業はそのうちセブ環状道路約57kmのみである。また、フィリピンの中でも特に貧困率が高い東ビサヤ地方では人口増加に伴う交通量増大への対応や、毎年約6%以上の経済成長による貧困率の削減を実現するための物流改善策として、更なる道路ネットワークの拡充が必要とされている。

上述の背景の中、地方拠点開発や国内連結性の向上も視野に全国道路網整備計画検討のため JICA が実施した技術協力「高規格道路網開発マスタープランプロジェクト

(フェーズ2)(2019~2021年)(以下「M/P」という)」において、全国の高規格道路のうち緊急性や技術難度、支援の必要性が高い区間が確認された。そのうち、東ビサヤ地方のレイテ島とサマール島を繋ぐ現サンファニコ橋(全長約2,600m、トラス橋)は、日本の協力で整備され、1973年の完成からおよそ半世紀に亘り、両島を結ぶ唯一の道路として両島の経済・生活・物流を支え、また長らくフィリピン最長の橋として同地域の観光名所とされてきた。しかし、上述のM/Pにおいて、当該地域の経済発展に伴い、今後10年以内に同橋の交通容量が不足する可能性があるものの、トラス橋形式のため拡幅を行えないことが確認された。また、同橋の老朽化対策として通行車両の荷重が制限されていることに加え、近い将来、床版補修等の改修工事による長期の通行止めが避けられない可能性が見込まれている。同橋の通行止めは両島間における唯一の道路交通手段を断絶することとなるため、生産品や燃料といった物品の往来が止まるなど、フィリピン国内でも最も貧困率の高い地域の1つである同地域の経済生産活動に多大な負の影響を及ぼす。

本計画は、レイテ島とサマール島において両島間を結ぶ橋梁(第2サンファニコ橋)及びそのアプローチ道路を建設することにより、増大する交通・物流需要への対応と両島間における交通・物流の寸断や制限による影響の最小化を図るものであり、同地域の経済発展の促進に寄与する優先事業として位置付けられている。フィリピン政府は、「フィリピン開発計画2023~2028」において「インフラ網の拡大・質的向上」を打ち出しており、貧困層が特に多い東ビサヤ地方における連結性の強化を目的とした本計画は、同開発計画にも合致している。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容

- ア) 橋梁建設(橋長約5km(うちアプローチ道路延長約4km))
  - イ) コンサルティング・サービス(詳細設計、入札補助、施工監理、維持管理能力向上支援、環境社会配慮等)
- ② 期待される開発効果: レイテ島及びサマール島における両島間の貨物量を含む交通量の増加(7,200台/日→15,900台/日)により、同地における交通・物流の寸断や制限による影響の最小化や、経済発展への貢献が期待される。
- ③ 借入人: フィリピン共和国政府(Government of the Republic of the Philippines)
- ④ 計画実施機関/実施体制: 公共事業道路省(Department of Public Works and Highways: DPWH)
- ⑤ 他機関との連携・役割分担: 協力準備調査にて確認
- ⑥ 運営/維持管理体制: DPWHが運営・維持管理を実施予定。

#### (2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類: B
- ジェンダー分類: GI(ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)
- 長大橋として本邦技術・資材の活用によりSTEP(本邦技術活用条件)案件化を想定。

#### 4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

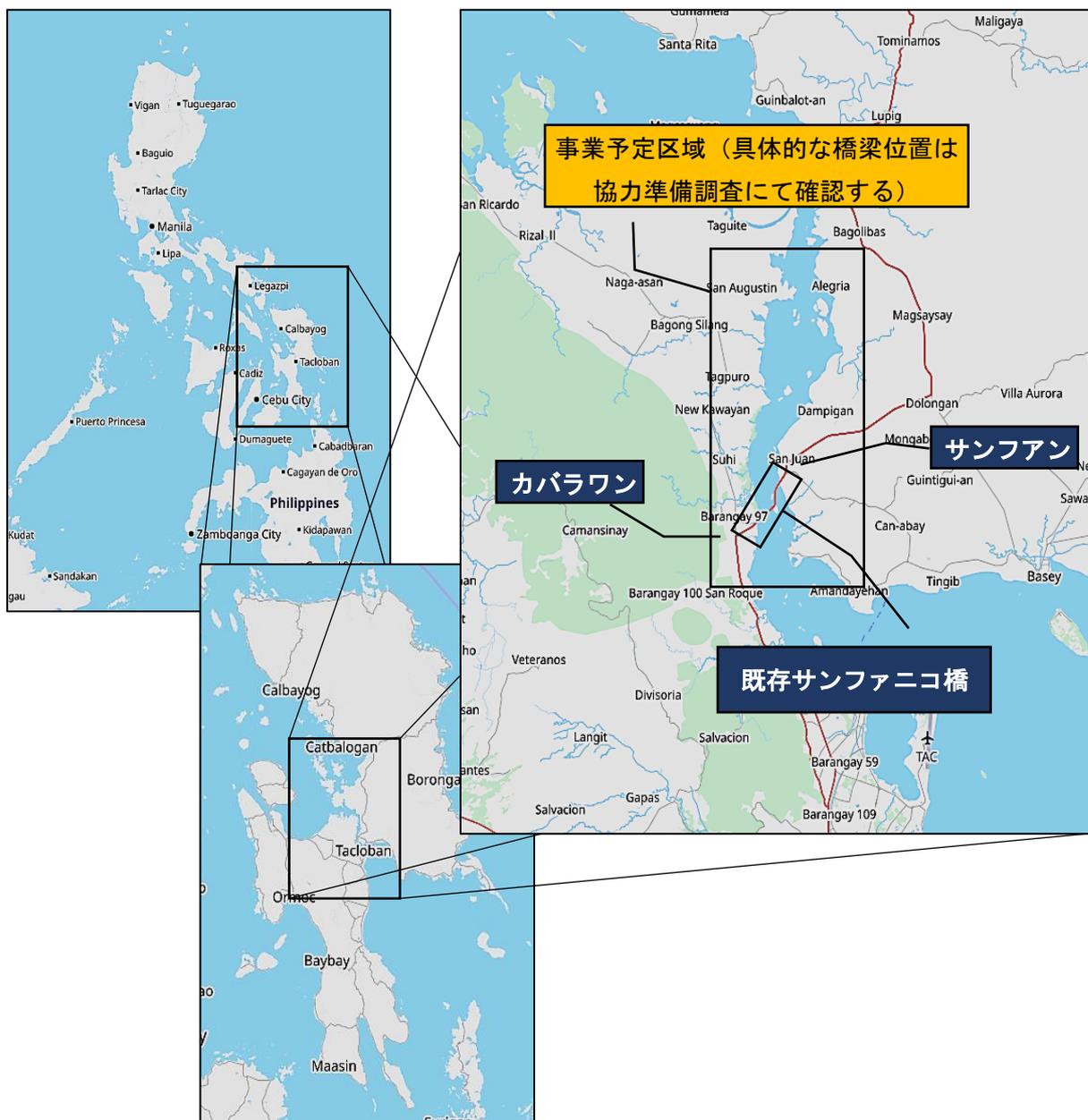
過去に本計画対象地域で行われたフィリピン「第二マグサイサイ橋・バイパス道路建設計画」（評価年度 2012 年）の事後評価では、軟弱地盤として地盤沈下が確認されたことにより、適切なモニタリングが必要と提言されている。本計画においても軟弱地盤における橋梁及びアプローチ道路の建設が予定されていることから、上記教訓を踏まえ十分な地質調査と対策検討等を行う予定。

以 上

[別添資料] 地図

[別添資料] 写真

地図「第2サンファニコ橋建設計画」



(出典 : [Open Street Map](https://www.openstreetmap.org/) (based on Open Database License))

写真「第2サンファニコ橋建設計画」

	
<p>既存のサンファニコ橋（遠目）</p>	<p>既存のサンファニコ橋</p>
	
<p>第2サンファニコ橋が接続予定かつ、 リハビリが予定されている幹線道路 （日比友好道路）</p>	<p>第2サンファニコ橋アプローチ道路建 設予定地の利用状況</p>
	
<p>第2サンファニコ橋建設予定地から幹 線道路までの既存道路における道路用 地（ROW）を示す看板</p>	